

令和7年度 長浦小学校 学力向上プラン

【学校教育目標】

笑顔で“できる”長浦っ子の育成

～ふるさとに誇りと愛着を感じ、互いの幸せを生み出す力をもった子供の育成～

【めざす児童像】

- ㊦ 笑顔の力で つながる なかま
- ㊦ がんばれる わたしがわたしを つくるんだ
- ㊦ お互いの 持ち味生かして 高め合う

【到達目標】

- 国語科・算数科の学期末評価
テスト平均正答率80%以上
- 1人100冊読書全員達成

【授業改善】

1. 「関連知識」（既習内容の復習等）を授業冒頭に思い出させる
2. 「類似点」や「相違点」を考える機会の設定
3. 計算ができればよいのではなく、整数や分数、小数の概念を理解させる
4. 「思・判・表」力の向上に資する授業の実施
5. 個別学習を含めた授業の工夫
 - ・コンパスや分度器などは、動画で使い方を学び、教師は確認と個別指導をする
 - ・九九や都道府県などを覚えさせる時には、繰り返し学習にこだわらず、歌などを使って覚えやすい方法を見つけさせる
 - ・漢字や作文などを書かせる時には、指書きや端末を使うなど、書字に障害がある児童に困り感をもたせない指導も取り入れる

【学習規律】

1. 「ガイド学習」による個別学習の推進
 - ・学習スタイルの統一
 - ・ガイド学習の提示（授業の流れの見える化）
2. 長浦小ユニバーサル化
3. 授業の初めと終わりの厳守

【指導体制の充実】

1. 個に応じた指導の充実
2. T T（少人数指導）を活用した授業体制
3. I C Tを活用した授業の展開
4. 個別最適な学び、協働的な学びの一体的充実

【テストの振り返り】

1. できた、できないで終わらせない工夫
 - ・何も分からなかった
 - ・何となく分かったが、式を間違えた
 - ・式はできたが、筆算を間違えた
 - ・ケアレスミス（単位の付け忘れ）
 - ・正解だった
2. 3つの視点で考えさせる
 - ①テストの時、どう考えたのか
 - ②どう考えれば、うまくいく（正解する）のか
 - ③似た問題を解いて、理解できているか確認する

【校内研究】

1. 子どもが主体的に進める授業を通した、目指す子どもの姿の言語化
 - ・ガイド学習進行表等の作成
2. 複式カリキュラムの見直し・修正
 - ・異学年協働・交流の視点からのカリキュラム見直し
3. 長浦小ユニバーサル化
 - ・朝の会や帰りの会、号令の仕方（所作）などの統一
 - ・板書やネームプレートなどの環境整備
4. I C T、特別支援、複式指導等に関する現職教育
5. フォロワー育成に向けた話し上手、聞き上手への全校的取組

【学校図書館の3機能を生かした学習指導の充実・読書活動の推進】

1. 全校一人百冊読書の推進
2. 読書タイムの質的向上、多様な読書活動の取組
3. 図書館資料を活用した授業作り
4. 市立図書館と連携した巡回図書活動
5. 図書館司書、地域ボランティア、図書委員会による読み語り活動
6. うちどく（家庭読書の日）の実施

【チャレンジタイムの活用】

1. 週2回約10分の時間の活用
 - ・火曜及び金曜…ICTスキル向上、国語科、算数科
 - ・学習スタイルの自己決定による取組
2. 基礎基本の習熟及び徹底
3. キュビナ、コグトレオンラインの積極的活用

令和7年度全国学力・学習状況調査及び県・市学力調査より

<本校の課題>

- ・学力の2極化傾向及び学年による定着力の差が見られる。
（国語）
 - ・書く内容の中心を明確にし、文章の構成を考える力が不足している。
 - ・主語と述語など、文の構造を理解し文を正しく書く力が不十分である。
 - ・目的に応じて、文章と図表などを結び付けるなどして、必要な情報を見つける力が不十分である。（特に記述式）
- （算数）
 - ・「測定」と「データの活用」の分野に苦手意識が見られる。
 - ・「知識・技能」の定着が不十分である。
 - ・問題文をもとに、立式をすることに苦手意識が見られる。

○本校の学力調査の平均正答率

（令和7年4月実施）

6年生	国語	算数
全国	67.0	58.2
長崎県	66.0	56.0
本校	▼▼▼▼ (45.0)	▼▼▼ (40.0)

5年生	国語	算数
長崎県	60.1	67.0
長崎市	61.0	67.0
本校	○○○ (73.5)	○○ (72.7)

4年生	国語	算数
長崎市	64.0	69.0
本校	▼ (62.2)	▼ (66.0)

3年生	国語	算数
長崎市	66.0	73.0
本校	▼▼ (59.2)	▼ (70.6)